

⑫ 実用新案公報(Y2)

平5-39691

⑤ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 平成5年(1993)10月8日

A 61 F 13/15

7603-4C
7603-4C

A 61 F 13/18

3 1 0 A
3 3 1

請求項の数 2 (全4頁)

⑮ 考案の名称 生理用ナブキン

⑯ 実 願 平1-95055

⑰ 公 開 平3-33622

⑱ 出 願 平1(1989)8月10日

⑲ 平3(1991)4月3日

⑳ 考 案 者 村 上 正 樹 愛媛県川之江市金生町山田井字カケノ上乙24-13
 ㉑ 考 案 者 山 本 正 満 愛媛県川之江市金生町下分乙18-32
 ㉒ 考 案 者 柏 木 政 浩 愛媛県川之江市金生町下分2205-21-2
 ㉓ 出 願 人 ユニ・チャーム株式会社 愛媛県川之江市金生町下分182番地
 ㉔ 代 理 人 弁理士 白浜 吉治
 審 査 官 鈴 木 寛 治

1

2

⑳ 実用新案登録請求の範囲

(1) マット状の吸液性コアと、該コアの下面に位置させて該コアの両横側部の上面へ折り返した不透液性バックシートと、少なくとも該コアの上面および該バックシートの前記折り返し部の上面に位置させた透液性トップシートとを有し、該トップシートの縦方向両端をシールした生理用ナブキンにおいて、前記トップシートの下面と前記コアの上面との間に親水性不織布ネットを介在させてあることを特徴とする前記ナブキン。

(2) 請求項1記載のナブキンであつて、ナブキンの上面両側にその長さ方向へ延びるとともにそのほぼ中央部において間隔が狭くなつた第1の圧搾条溝と、ナブキンの下面の幅方向中央部からその長さ方向後端近傍へ延びる第2の圧搾条溝とをそれぞれ設けてある前記ナブキン。

考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は、経血を吸収保持するいわゆる生理用ナブキンに関する。

〔従来の技術とその課題〕

従来、生理用ナブキンにおいて、経血吸収面における透水性トップシートとこれによつて覆われる吸液性コアの上面との間に該トップシートより

も密度の低い繊維層または疎水性ネット層を介在させたものが知られている。これは繊維層の介在によつてトップシートとコアの上面とを隔離する、換言すると、トップシートをコアの上面から浮かせ、経血をいわばスポット的にトップシートを介して迅速にコアに吸収させる一方、コアに吸収された経血が逆流してコアに滲出することを少なくすることにより、トップシートの湿潤状態を少なくし、一旦湿潤した領域を迅速に乾燥させて着用者に不快感を与えないようにすることを意図したものである。

一方、従来、生理用ナブキンにおいて、その長さ方向に着用時の屈曲案内機能を果す圧搾条溝をナブキンの構成部材の積層体またはコアに設けるか、またはコアに同様の機能を果す切り込みを設けたものが知られている。これは圧搾条溝または切り込みによつてナブキンの女性局部への適合密着性を高めるようにしたものである。

しかし、前記公知技術が意図する作用効果は、前記構成のゆえに未だ充分に達成されていない。

本考案の目的は、以下に述べる手段により、前記作用効果をさらに改善することができる生理用ナブキンを提供することにある。

〔課題を解決するための手段〕

前記目的を達成するための本考案の生理用ナブ

BEST AVAILABLE COPY

キンは、透液性トップシートの下面と吸液性コアの上面との間に親水性不織布ネットを介在させてある（第1の手段という）。

本考案の生理用ナブキンは、さらに、ナブキンの上面両側にその長さ方向へ延びるとともにそのほぼ中央部において間隔が狭くなつた第1の圧搾条溝と、ナブキンの下面の幅方向中央部からその長さ方向後端近傍へ延びる第2の圧搾条溝とをそれぞれ設けてある（第2の手段という）。

〔作用〕

第1の手段によれば、トップシートの或る域の上面に排泄された経血がその域における不織布ネットの孔群を通るとともに該孔群を画成する繊維束の毛細管作用による浸透で迅速にコアに吸収される、つまり迅速にスポット吸収される。一方、コアに吸収された経血は、不織布ネットがトップシートとコアとの間の空隙を形成していることで、逆流してトップシートへ滲出することが少ない。

第2の手段によれば、着用状態においては、第2の圧搾条溝を介してナブキンの中央部が着用者の肌側へいわば山形に隆起するとともに第1の圧搾条溝を介してナブキンの両側部が着用者の肌側へ屈曲して全体としてほぼW字形の立体構造に変形する。この変形はナブキンの女性局部への適合密着性を高め、経血の漏れを最少にする。

〔実施例〕

図面を参照して、本考案のナブキンを説明すると、以下のとおりである。

第1図ないし第3図において、ナブキンは、縦長のマット状吸液性コア1と、コア1の上面に位置させた親水性不織布ネット2と、コア1の下面から不織布ネット2の両横側上面部を覆った不透液性バックシート3と、これらの積層体をその上面から下面へ覆ってこの下面で重ね合せた透液性トップシート4とからなり、トップシート4の縦方向両端5を熱圧着でシールしてある。

こうした構成を有するナブキンは、その上面両側にその長さ方向へ延びるとともにその中央部において間隔が狭くなつた圧搾条溝6と、前記間隔が狭くなつた圧搾条溝6'が位置するナブキンの下面の幅方向中央からその長さ方向後端（上端）近傍へ延びる圧搾条溝7とをそれぞれ設けてある。さらに、ナブキンの下面における圧搾条溝7

の両側にあつてナブキンの長さ方向中央部からその前端（下端）近傍へ延びる、着用シヨーツへの止着用粘着部8を設けてある。

圧搾条溝6、6'、7は加熱して設けることで、その部分におけるバックシート3とトップシート4とを溶着させてあつて、バックシート3がナブキンの取り扱い中や着用中にずれることがない。

コア1はフラッフパルプに高吸液性ポリマー粉末を混合したものから、バックシート3はプラスチックフィルムから、かつトップシート4は不織布からそれぞれ作られている。この不織布は第5図に示すように、疎水性繊維ウェブの上下層9、10からなり、下層10が上層9よりも密度を低くしてある。不織布ネット2は、レーヨンなどの親水性繊維からなり、第6図および第7図に示すように、繊維束11で画成された孔（目）12を有する。こうした不織布ネット2は、たとえば、多数の突起を表面に有する支持体またはネット状の支持体に繊維ウェブを載せ、その上方向から高速流体で繊維を再配列かつ交絡させることによりうるることができる。目付は10~60g/m²であり、厚さは0.2~1.5mmであり、開孔率は30~70%であり、かつ、一つの孔12の面積は0.2~3mm²であることが好ましい。粘着部8はホットメルト型粘着剤を塗布することで設けてある。

前述の構成を有する本考案ナブキンは、幅狭い間隔の圧搾条溝6'間の中央部が女性局部に位置するように当接して伸縮性シヨーツで着用したとき、着用者の大腿からの応力を受けることで、第4図に示すように、股間ではほぼW字形の立体構造に変形して女性局部に適合密着する。すなわち、圧搾条溝6'間の中央部が圧搾条溝7を介して山形に着用者の肌側へ隆起するとともに両側部が圧搾条溝6を介して着用者の肌側へ屈曲してそれぞれ密着することになる。

〔考案の効果〕

以上の構成および作用を有する本考案ナブキンによれば、トップシートとコアとの間に親水性不織布ネットが介在しているから、トップシートからコアへのスポット吸収および毛細管作用による吸収能が改善され、トップシートにおける経血吸収口が拡散せず、着用者に湿潤感を与えるのを最少にすることができる。

また、ナブキンの上面の両側部と下面の中央部

5

6

とに圧搾条溝を設けてあるから、着用者の股間にあつてナプキンが女性局部に適合密着する立体構造をとり、経血のナプキンからのいわゆる横漏れを防止することができる。

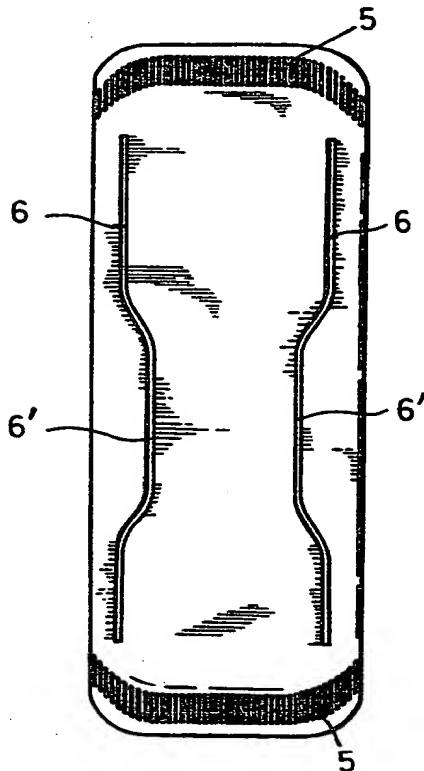
図面の簡単な説明

図面は本考案ナプキンの実施例を示すもので、第1図は上部平面図、第2図は下部平面図、第3

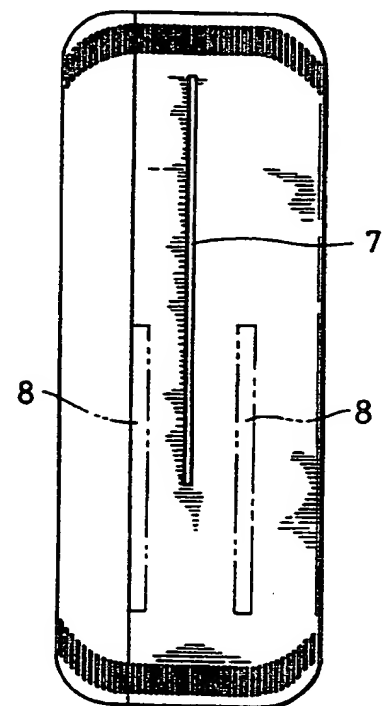
図は横断面図、第4図は変形した状態の横断面図、第5図はトップシートの一部の模写的断面図、第6図は不織布ネットの一部の模写的平面図、第7図は第6図の一部の拡大平面図である。

5 1……コア、2……不織布ネット、3……バックシート、4……トップシート、5……縦方向端、6、6'、7……圧搾条溝、8……粘着部。

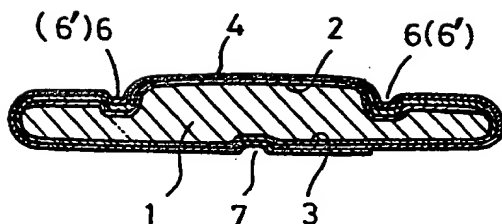
第1図



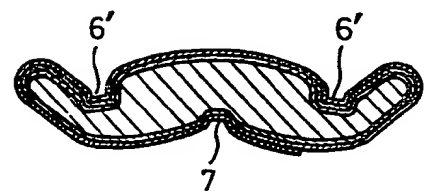
第2図



第3図

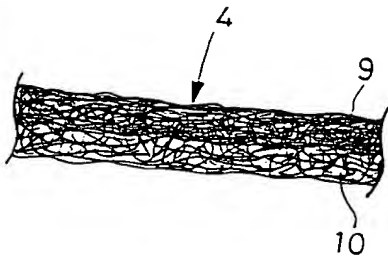


第4図

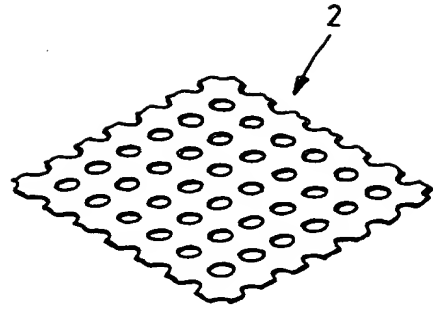


BEST AVAILABLE COPY

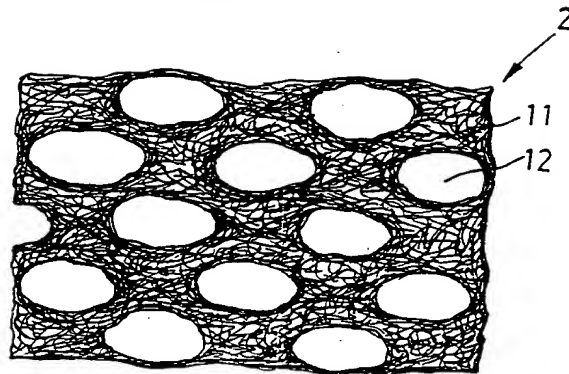
第 5 図



第 6 図



第 7 図



BEST AVAILABLE COPY